

まちを守る煉瓦造りの樋門

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

つきどめにばんひ  
築留二番樋



全景



遠景



近景



記念石碑

所在地： 柏原市上市 2-7-32  
最寄駅： 近鉄大阪線「安堂」駅 西へ約 50 m  
見学： 自由  
文化財指定等：登録有形文化財  
TEL： 築留土地改良区 072-972-0761  
又は農村振興局整備部  
03-3502-6204

奈良盆地の水を集めた大和川は大阪平野に流れ込んだ後、北西方向に流れていた。

それが、現在のように堺方向に付替えられたのは1704年(宝永元年)のことである。この樋門は旧川筋の一つである長瀬川と玉串川へ農業用水として取水するものである。形状は、煉瓦造りの最大幅157cmのアーチ型の樋門である。基本的にイギリス積みを採用し、両壁の下半分が長手積みとなっている。アーチの断面は側面が垂直ではなく、鉄道のトンネルのように馬蹄形となっている。

大和川付替え記念碑公園にある石碑には「河内之州名興實符…」とあり、要約すると、(大和川と石川の合流する築留地区は大雨になれば水が溢れ、非常に危険である。明治20年10月の大雨により、決壊の危機となり、役人や村長、年番らが1500余名の人夫を指図し、死にものぐるいで決壊を防いだ。こうした災害を防ぐ為に水門の改修には煉瓦を用いることとし村会に提案し12月4日に着工、人夫の働きにより21年3月25日完了、樋門は堅牢で将来永く崩れることなく後世に伝わる事が期待される)と刻まれている。

又、明治21年5月20日の朝日新聞には、樋管改築落成式とあり、落成式と前述の記念碑の建設式が行われ、知事や府会議員、郡長等100余名が参列、模擬茶店では折詰が出され、花火の打上げや素人相撲大会、尋常高等小学校の生徒による体操等の催しがあり、この地方では稀な賑わいで、近隣の村民は半日休業をして楽しんだとある。(辻野忠彦)